

さつま町関係集団学童疎開と空襲

2025.8. 26,7 修正 Miura4 盈

さつま町は1945年(昭和20年)7月27日と29日の2回アメリカ空軍機が攻撃しました。

年月日・場所	学童疎開・空襲ほか
1 1944昭和19 ぐみょう 求名 永野	① 田辺航空(軍用機製作)の疎開工場が求名、永野にできた。 陸軍部隊が求名永野に一時滞在した。 ② (宮之城でも別会社員が同じ様にいた。詳しくは分からない)
2 1944 昭 19 ぜんいき さつま町全域	① 鹿児島市や県外から家族や学童が親戚をたよって疎開して来た。 ② 奄美大島の徳之島から7家族が永野に疎開した。戦後島に帰った。 ③ (宮之城の三浦家には、大阪から小学生3人と東京から叔母3人が疎開。このように都会から親戚を頼って来た。縁故疎開と言った。)
3 1945 昭 20 さしむらかりやばる 佐志村仮屋原	① 4/21、日本の戦闘機2機対アメリカの戦闘機6機が空中戦をした。 日本機1機は佐志仮屋原に1機は大村(現祁答院町)に撃墜された。 ② 航空兵は仮屋原の人やお医者さんに助けられ、部隊に帰った。
4 1945,4 昭 20 たねがしまなかたねちよう 種子島中種子町	① 学童1,715人が、盈進・平川・流水・柊野。佐志。鶴田・柏原。 永野。求名の各区に集団疎開、公民館・お寺などに泊まった。 ② 鶴田、柏原、永野、求名では希望家庭にも疎開した。 ③ (種子島から、さつま町以外を含めて、全体で5,719人が疎開)
5,1945,4 昭 20 こしきしま さとむら 甑島 里村	① 学童450人が山崎校と泊野校、白男川校の校区に集団疎開した。 ② 泊野校の疎開学童が赤痢で3人死んだ。当時、全国的に赤痢流行。 ③ 戦後、里村の疎開記念碑が山崎支所跡に建った。町道から見える。
6,1945,4 昭 20 こしきしま かみこしきむら 甑島 上甑村	① 中津国民学校の児童256人が大村(現薩摩川内市祁答院町)北南校区(現薩摩小=中津川小)と黒木校区に集団疎開した)
7 1945,7 昭 20 やちとらい 宮之城町集団地 (屋地・虎居)	① 7/27と7/29アメリカの戦闘機(グラマン機かロッキード機)2機か3機が来襲。さつま町内各地を機銃掃射と爆弾を落とした。 ② 県立宮之城農蚕学校(現JAの所)を機銃掃射、(私は今の中央高校グラウンドの所にいて、見ていた。攻撃後、頭上約10mを飛んだ) ③ 川内川(虎居橋下)で水泳中の学童20~30人を機銃掃射。当たらなかった。機銃弾の水しぶきが一直線に走った。 ④ 虎居橋に爆弾投下、当たらず不発弾、戦後、自衛隊が爆破した。 ⑤ 盈進校機銃掃射、校庭に機銃弾の穴が一直線にできた。 ⑥ 盈進校への爆弾は裏の製材所の土場(現林田病院)に落ち穴。 ⑦ 宮之城警察署(屋地にあった)庭に爆弾穴。直径4~5m、深さ約1m。 ⑧ 屋地十字路にあった鹿銀の裏の空き地に爆弾穴ができた。 ⑨ 信教寺前里芋畑に爆弾2つ、盈進校高等科二年生1人が即死。 ⑩ 片倉製糸工場に機銃掃射曳光弾で繭倉庫火事になった。バケツリレーで消した。何れも被害軽るい。煙突は攻撃されなかった。 ⑪ 農蚕学校に陸軍部隊一時駐屯。空襲の時どこかに移りいなかった。部隊用食料品(数の子)を倉庫(虎居上町田中さん)に運搬した。

8 1945,7 昭 20 山崎校・山崎駅 (⑥は現薩摩川内市祁答院町の人である)	① 陸軍部隊一時駐屯。空襲時志布志方面へ移動していなかった。 ② 山崎小機銃掃射と山崎橋爆弾当たらず不発弾であった。 ③ 校庭の一部にサツマイモを植えてあった。 ④ 山崎駅機銃掃射。駅近くの茅葺屋根曳光弾のため火災になった。 ⑤ 角郷に爆弾投下。学童夏休みであったが無事であった。 ⑥ 終戦4日前久富木県道で大村農業会トラック機銃掃射され、運転手即死、1人は手首切断 1人は腕など貫通銃創を負った。
9 1945,昭 20 ぐみょう 永野、求名、中津川	① 7/27 米軍機来襲。永野金山鉄橋に爆弾投下、鉄橋の女性を機銃攻撃したが、無事だったという。鉄橋に機銃弾の傷跡できた ② 永野校では1人赤痢で死亡したという。(赤痢が全国的に流行) ③ 宮後の鉄橋に爆弾投下したという。 ④ 求名校と求名駅機銃攻撃、駅焼失。駅近く田んぼに爆弾の穴。 ⑤ 広橋駅焼失、鉄橋に爆弾当たらず。交通機関特に鉄橋狙われた。 ⑥ 北南校(中津川校)を米空軍機攻撃せずかすめて通過したという。
10, 1976 昭 51 宮之城町と里村	① 疎開の縁で宮之城町と里村が姉妹盟約を結び交流が始まる。 ② 「里村学童疎開記念碑」が山崎支所跡に建った。町道から見える。
11, 1984 昭 59 柏原小、盈進小、佐志小	① 中種子町から39年ぶり母校訪問。 ② 疎開学童33人を含む42人が、疎開先の柏原小・盈進小・佐志小を訪問。鶴田ダムや宗功寺跡を見学した。南日本新聞で報道。
12, 1995 平成 7 柏原小と岩岡小	① 疎開50年目。柏原小と中種子町吉岡小の交流「疎開児童ともう一つの家族再会」と南日本新聞に報道。1995平成7年10月4日付
13, 2005 平 17 さつま町と中種子町	① 60年目、疎開の縁でさつま町と中種子町が協定締結。友好交流が始まる。(ウミガメ交流事業・青少年交流事業)中種子町から来町。南日本新聞「60年ぶり母校に感慨」の記事。9/29。
14, 2024 令 6 年 8 月、さつま町と中種子町	① さつま町から中学生6名小学生29名、引率者6名が中種子町へ学習と友好を深めた。 ② 令和7年8月には中種子町からさつま町に来町予定。台風で中止。 ③ 両町の交流は令和6年で19回、さつま町交流人口延べ454名。
15 疎開児童関係図書	① 「甑島里国民学校学童疎開の思い出」 和田静子著 ② 「終戦秘録 甑島 昭和二十年」 梶原仲吉著
(注) 資料により数字が異なることがあります。追加・修正は教えてください。 参考 1941 昭和 16,12/8 太平洋戦争。1945 昭和 20,6/23沖繩陥落、戦後「沖縄慰霊の日」となる。鹿児島市大空襲前後8回(死者3,329人)うち20,6/17は2,316人死亡、11,649戸焼けた。さつま町から空焼け遠望。20,7/27と29さつま町空襲、佐志村と鶴田村は空襲がなかった。1945 昭和 20,8/15終戦。 ④盈	

- 1 疎開とは、空襲の被害を少なくするため、人や物を分散させること。
- 2 日本の戦闘機は この頃になるとゼロ戦などは少なく、旧式の練習機みたいな飛行機であったという。胴体はベニヤ板であったという証言がある。
- 3 種子島・甕島からなぜ疎開したか 沖縄戦では、本島の近くの慶良間諸島に、上陸しそこを足がかりに本島を攻めた。九州に上陸する前に種甕二島を攻めると考えた。
- 4 赤痢とは 発熱、下痢血便、下血、腹痛。経口感染。急性腸炎。赤痢菌。
予防法は、手洗い、生水や生野菜など生ものはとらない。
戦争中、食糧不足、衛生環境の悪化、医療体制不足ため、流行したという。
- 5 国民学校とは 戦争を勝ち抜くため、軍国主義的な教育、つまり、国民としての精神、天皇への忠義、体力の向上、学科の充実をはかるため。小学校の名前を変えた。、
- 6 機銃掃射とは ここでは戦闘機から約 500m先を連続して撃つ。4・5 発毎に火を噴く曳光弾がある。命中したか良く見えた。ヒューという普通とは違った恐い音がした。戦闘機はプロペラ機です。1 人乗っていて、機銃はプロペラの後ろにある。
- 7 茅葺屋根とは ススキや藁など茅を束ねて、屋根を葺いた屋根。普通「むっがら家」

▶別記 3◀

疎開児童の校区ごと人数、疎開期間

疎開国民学校	受入校	児童数	期間(昭 20)ほか
中種子南海校	佐志校	331 人	4/29～9/29
岩岡校	柏原校	106 人	4～9 ・個人宅も
星原校	鶴田校	165 人	4/23～10/1 ・個人宅も
野間校	盈進・平川・流水・終野 4 校	510 人	4/18～10/1
増田校	永野校	348 人	4/30～9/30 ・個人宅も
油久校	求名校	104 人	4/21～10/1 ・個人宅も
納官校	神子・紫尾校	104 人	
中種子 7 校小計		1715 人	
里 里 校	山崎・泊野・白男川	450 人	5/30～8/21
上甕 中津校	北南校(中津川校)	128 人	5/31～8/25
合 計	9 校 15 校	2,293 人	

- 注 1 北南校(中津川校)128 人は、黒木校との 2 校に 256 人なので、半数を見込んだ。
- 2 児童数は県史による。県史にない里校は「里村学童疎開記念碑」による。
- 3 資料により数字の異なるものがある。